



西国三十三所観音霊場巡礼を実践していて
令和4年12月2日のお参りで「満願」達成
となりました。



23期 常任幹事 知地 豊



西国三十三所
観音巡礼第1番
那智山 青岸渡寺

西国三十三所（さいごくさんじゅうさんしよ、さいこくさんじゅうさんしよ）は、観音巡礼の一つ。観音菩薩を祀る近畿地方2府4県と岐阜県の三十三箇所の札所寺院と三箇所の番外寺院からなる観音霊場日本で最も歴史がある巡礼であり、現在も多くのお参者が訪れている。

「三十三」とは、『妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五』（観音経）に説かれる、観世音菩薩が衆生を救うとき33の姿に変化するという信仰に由来し、その功德に与るために三十三の霊場を選択することを意味し、西国三十三所の観音菩薩を巡礼参拝すると、現世で犯したあらゆる罪業が消滅し、極楽往生できるとされる。

文化庁の令和元年度「日本遺産」の16件（累計83件）の一つに、
『1300年つづく日本の終活の旅～西国三十三所観音巡礼～』が認定された。
(ウイキペディア-Wikipedia より引用)

2023年の節分も過ぎて、巷では紅梅が色づき春が呼んでいる季節となって来ました。みなさまお変わりなく息災のこととお喜び申し上げます。

投稿記事内容はいささか私事になりますがお許し下さい。

冒頭にウィキペディア-Wikipediaより引用の記事を紹介させて頂きました。

1 巡礼の開始

今は亡き母の感化を受けてこの巡礼を開始したのが2001年（平成13年）それから2010年（平成22年）までの間に32カ寺のお参りを済ませていました。最後の札所第27番姫路市書写山の園教寺さんがお参り出来ていなかったのです。

2010年からこの間の10年間と言うものは、あと1カ寺という気持ちに少しゆとりを持って楽しんでいたのでしょいか！ とでも羽当たりなことだったかも知れません。実は2011年にもこの大阪から姫路までお参りに向かったのですが、時は秋の紅葉シーズンでした。この書写山も紅葉の名所で知られています。私もお参り＝満願と、ついでに紅葉鑑賞の一石二鳥を秘かに胸に秘めていたのです。ところが現地に着いて見ると車がいっぱい周辺駐車場も満杯で、結局お参りをあきらめて出戻って来たのです。

数日前に関西のテレビで「書写山の紅葉真っ盛り」という特集情報が流されていたのです。この効果であったのでしょうか。「一石二鳥」を目論んだ私に仏罰が当たったと深く懺悔する羽目に陥ったのです。



第27番札所 園教寺
書写山門教寺本堂

.....
園教(マニ)とは梵語の
「如來」のこと。

天保元年(1830)創建。
国指定の重要文化財。
阿久玉豆蔵もここに
安置されています。

2 母の思い出

私の出身地である三重県熊野市に在住の今は亡き母が実践していて、私が生活している大阪に来るたびにここを足場として近隣のお寺さんにお参りしていたことを思い出します。母は当然ながら自動車運転など出来ない昔人間（明治後期生まれ）なので足とは言えば、公共交通機関以外は全て「自分の足」でした。携帯電話など勿論無い時代ですから道順や時間予定など簡単に調査することも困難な時代でした。それでも都合2回の「満願」を達成しています。

姫路市書写山の円教寺、舞鶴市松尾の松尾寺、岐阜県揖斐郡谷汲村の華嚴寺、和歌山県那智山の青岸渡寺などをはじめとして、札所巡りのお寺さんは、今の人間的感覚で言いますとそれはそれは遠い遠い交通不便な場所にあります。バス便があったにしても最寄りの鉄道系の駅からお寺さんまできっちりと路線が整備されているわけでも有りません。最寄りのバス停から相当歩かなければなりません。それらの多くは標高400mほどの山の上か、中腹に位置しています。今更ながらにその重さに頭が下がります。



3 これから如何に生きるかを考える。

それから反省しながらの13年、昨年（2022年12月）満を持して姫路市書写山の園教寺さんにお参りをさせて頂き、無事に「満願」達成させて頂きました。これを糧としてこれから如何に生きるか、さらなる成長を学びたいと思っています。（おわり）

（追って書き）

この皆様からの便り2019年6月24日「河内長野・しゃくなげ鑑賞会に参加して」に、26期「途上人KITANO」の皆さんと山登りした時にお参りさせて頂いたお寺さんが、西国観音霊場第4番橋尾山の施福寺さんでした。私は既に2010年にお参りをしていました。



西国観音霊場第4番 橋尾山の施福寺

